主催者挨拶

古河市教育委員会
教育長　吉田　浩康

児童文学が大いに興隆し「絵本黄金時代」と呼ばれた大正から昭和にかけての時代、数多くの子供向け雑誌が発行されるなか、ひときわ輝きを放つ絵雑誌が生まれました。大正 11 年､古河出身の名編集者･鷹見久太郎によって創刊された『コドモノクニ』です。文学と美術、さらには音楽まで融合させ、のちの幼児向け絵雑誌の祖型になったとも言われるこの絵雑誌は、児童文学史上に特筆される存在でした。その『コドモノクニ』と後継誌『コドモノテンチ』両誌の原画を活用し、現代にあらたな児童文学のうねりを興そうという趣旨で始まった公募企画が「１ページの絵本」です。

平成 20 年の国民文化祭をきっかけに始まった本企画も回を重ねること 16 回。息の長い企画となりましたが、本年度の「１ページの絵本」には、全国各地から小中学生の部に６,３８１点、一般の部に４９４点と、大変多くのご応募をいただきました。ご応募くださいましたすべての皆様、また、授業や課題等で取り組んでくださいました学校関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、入賞された皆様には心よりお祝いを申し上げます。

さて、私たちのまち古河は、日本最古の歌集『万葉集』にその姿を現して以来、重層的な歴史を持ちながら、多くの文学者・芸術家・文化人を輩出してきた「歴史・文化・芸術のまち」であります。そんな古河から生まれた鷹見久太郎は「情緒を育み、五感のすべてにおける健やかな成長を促す」という編集方針のもと、『コドモノクニ』を発行しました。

社会のグローバル化・情報化が進み、また、チャットＧＰＴに代表される人工知能（ＡＩ）が著しく発達するなど、ますます変化が激しくなっている現代において、人間がその尊厳を維持するためには、豊かな情緒と自由な発想力、創造力が必要とされるのではないでしょうか。言い換えれば、現代こそ、文化・芸術の力が大いに必要とされる時代であるともいえます。「１ページの絵本」はそんな時代の要請に応えうる、真の人間形成に役立つ企画であると考えております。今後とも皆様の温かいご支援・ご協力を賜れれば幸いです。

最後になりますが、審査の労をお取りくださった選考委員の諸先生をはじめ、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。